

1. 理事会からのお知らせ

(1) 代表理事挨拶

皆様におかれましては、平素から TCER の活動に多大なるご支援とご協力を賜り、ありがとうございます。いくつかの事業につきまして近況を報告いたします。

TCER ワーキング・ペーパー・シリーズは、鯉淵賢理事、加納隆理事のご尽力によって、SSRN に続き RePEC ともリンクしました。TCER のウェブサイト上で論文を投稿し掲載が許可されれば、RePEC のサイト <http://econpapers.repec.org/paper/tcrwpaper/> にも程なくリストアップされて、要約の閲覧や論文のダウンロードが可能になります。TCER のワーキングペーパー投稿システムを是非ともご活用ください。

NBER, CPER, TCER が共同で開催してきた TIRIO コンファレンスにつきましては、ここ 2 年間開催できずにおりましたが、2015 年度は国際金融をテーマとして東京で開催する準備を進めております。

東アジア研究交流事業の一環として、サンフランシスコ連銀との共催で、非伝統的金融政策をテーマとしたセミナーを 6 月にサンフランシスコで開催する予定です。一方、TCER=TIFO フェローシップ事業では、2014 年度はラオスから研究者を招聘し日本で実施する共同研究に助成をさせていただきました。すでにフェローの皆様にはご連絡を差し上げておりますが、2015 年度の TCER=TIFO フェローシップ事業はすでに募集を始めています。個人研究助成への応募とともに、5 月の連休明けが締切になっております。どちらの助成事業への応募も決してフェローに限定されておりませんので、お知り合いの方にご紹介いただければ幸いに存じます。

TCER コンファレンス（旧逗子コンファレンス）は、木村福成慶應大学教授が中心になって、「国際経済学のフロンティア」をテーマに第 2 回のワークショップが慶應大学で開催されました。これまでの活動の成果をまとめ、2015 年度中には久しぶりにコンファレンス・ヴォリュームを出版できる見通しになっています。また新たに 2015 年度には有村俊秀早稲田大学教授を中心としたメンバーが、環境経済学をテーマとした TCER コンファレンスを組織する予定になっています。学術的に高く評価されてきた TCER の出版事業の伝統を是非とも復活させていただきたいと考えております。

緊急課題対応事業として「検証・アベノミクス」をテーマに 2 年間継続してきた特別プロジェクトでは、これまで新聞や学術誌などに分散して発表してきました。2015 年度では、これらの成果をとりまとめたものを新聞連載や学術誌の特集号といった形で発信していきたいと考えています。

2014 年 3 月には TCER ジュニアワークショップを早稲田大学で開催しました。大学院生やポスドク合計 7 名が報告し、事前に完成論文を準備できた報告者には通常の学

会のように、討論者を招いてディスカッションも行いました。早稲田大学で同日に開催された政治経済学会とのジョイントプログラムにさせていただいたお陰で、当ワークショップには海外からの参加者もあり思いの外盛況でしたし、活発な議論が交わされました。2015年度も同じようなやり方でジュニアワークショップを開催する予定にしておりますので、若手研究者の参加をお待ちしております。

最後になりますが、長く評議員として TCER の活動にご貢献いただき、惜しماًに助言を与えてくださった長谷川閑史氏（経済同友会代表幹事/武田薬品工業株式会社取締役会長）、前原金一氏（経済同友会副代表幹事・専務理事）が2015年4月27日をもって辞任されます。後任としては、小林喜光氏（三菱ケミカルホールディング株式会社取締役社長）と横尾敬介氏（みずほ証券株式会社常任顧問）のお二人に評議員をお引き受けいただくことになりましたので、ご報告申し上げます。

2015年度の TCER の活動も早稲田大学が幹事校となり、若田部昌澄教授、有村俊秀教授と三人で執行部を運営して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

小西秀樹（代表理事・早稲田大学）

（2）2014年度後半の理事会報告

2014年度第2回理事会は、2015年2月3日（火曜日）15時～16時半、飯田橋の TCER 事務所において開催されました。

平成27年度の事業計画書及び平成27年度の予算書が承認されました。2014年度の特定資産の取得についても承認されました。評議員選定委員会を招集すること、評議員候補者を推薦して評議員選定委員を選任することが承認されました。また、5名の新規フェローの入会も承認されました。

報告事項として、ワーキングペーパー・エディターの再任、顧問会計事務所の変更などについて説明がありました。

（3）2013年度後半の評議員会報告

2014年度第2回評議員会は、2015年2月23日（月曜日）13時～14時、日本工業倶楽部で開催されました。平成27年度の事業計画書及び平成27年度の予算書が承認されました。役員報酬規程の改定が承認されました。

（4）所属先変更のご連絡のお願い

今年度中に所属先が変更になった方、新年度から変更になる方は、お手数をおかけしますが、TCER 事務局（tcer@mbs.sphere.ne.jp）までご連絡下さい。また、メールアドレスの変更を希望なされるフェローも同様に事務局までご連絡ください。

必要事項は、氏名（フリガナ）、所属先、所属先住所（郵便番号）、電話番号、メ

ールアドレスとなります。

(5) 2015年度研究助成のお知らせ（フェロー以外も応募可能）

TCERでは、経済学研究者であればTCERフェローに限らずどなたでも応募することができる個人研究助成を行っています。お問い合わせにもご紹介下さい。

本制度設立の趣旨：本研究助成制度は、TCERフェローを含む経済学研究者の個人及び相互による経済学に関わる理論・実証面での萌芽的研究を支援することを目的としています。

応募資格：大学および研究機関に所属する経済学研究者（TCERフェローでなくてもよい）。ただし、同一テーマで過去3年以内に助成を受けた方（共同研究者である場合も含む）は応募できません。

助成対象期間：2015年4月～2016年3月

報告義務：2016年3月末までに所定の様式に従って研究成果報告書を提出するとともに、研究成果を東京経済研究センターワーキング・ペーパーとしてまとめる。これはRePEcやSSRNのTCERリサーチペーパーシリーズにも入ることになる。（なお研究成果の提出は2017年3月末まで延長できる。）

助成金額：1件当たり最高40万円

応募締め切り：2015年5月7日(木)午前9時

応募用紙：所定の応募用紙に入力し、Wordファイルをメールに添付して提出

応募先：TCER事務局Eメールアドレス (tcer@mbs.sphere.ne.jp)

(6) 2015年度TIFO=TCERフェローシップのお知らせ（フェロー以外も応募可能）

TCERでは、経済学研究者であればTCERフェローに限らずどなたでも応募することができる、TCER=TIFOフェローシップ事業を開始致します。お問い合わせにもご紹介下さい。

本制度設立の趣旨：本制度は、東南アジアに本拠を置く経済学研究者と日本の経済学研究者との間での、日本を含めた経済問題に関する共同研究を促進することを目的とし、公益財団法人東芝国際交流財団からの助成を受けて、東南アジアに本拠を置く経済学研究者を3週間から3カ月程度日本に呼び寄せる資金を提供するものである。

応募資格：日本国内の大学および研究機関に所属する経済学研究者（TCERフェローでなくてもよい）で、東南アジアに本拠を置く経済学研究者（以下共同研究者という）と

日本を含めた経済問題に関する共同研究を行う予定の者。ただし、同一の共同研究者で過去3年以内に助成を受けた者は応募できない。

助成対象期間：2015年4月～2016年3月末の間で最大3ヶ月

報告義務：2016年3月末までに所定の様式に従って共同研究報告書・支出明細を提出するとともに、研究成果を東京経済研究センターのワーキング・ペーパーとしてまとめる。これはRePEc やSSRNのTCERリサーチペーパーシリーズにも入ることになる。（なお研究成果の提出は2017年3月末まで延長できる。）

助成金額：総額100万円（1件あたり最高100万円）

応募締め切り：2015年5月7日(木)午前9時

応募用紙：所定の応募用紙に入力し、Wordファイルをメールに添付して提出

応募先：TCER事務局Eメールアドレス（tcer@mbs.sphere.ne.jp）

2. コンファレンスご案内・報告

公1 国際的学術研究・交流事業

(1) 日米欧研究交流事業(TRIO コンファレンス)ご案内

2015年度TRIO コンファレンスは、「国際金融」をテーマに2015年12月に東京で開催する予定である。NBERから4名、CEPRから3名、TCERから3名の参加を予定している。

(2) 東アジア研究交流事業(NBER-TCER 東アジア経済セミナー) ご案内

2015年度NBER-TCER 東アジア経済セミナー(East Asia Seminar on Economics、第26回)は2015年6月18-19日に米国サンフランシスコで開催の予定である（共催者はサンフランシスコ連邦準備銀行）。今年度のテーマは“Unconventional Monetary Policy”である。既に決定している報告者はAnil Kashyap (Chicago - Booth)、Martin Uribe (Columbia)、Alan Taylor (UC Davis)、Frank Warnock (Virginia - Darden)、植田健一（東京大学、TCER）、伊藤隆敏（Columbia University 兼政策研究大学院大学（6-8月）、TCER）である。その他に星岳雄（Stanford University、TCER）の参加も検討中である。Local Organizersは、Andrew Rose (University of California, Berkeley)、Mark Spiegel(San Francisco Federal Bank)である。（以上敬称略）

(3) 環太平洋地域研究交流事業（アジア危機コンファレンス） ご案内

2015年度環太平洋地域研究交流事業「アジア危機コンファレンス」は、2015年7月8-10日に台湾・台北の台湾国立大学で開催する予定である。TCERからは5名程度の派

遣を予定しており、論文を報告すると同時に、アジア太平洋地域の研究者と研究交流を行う。

(4) TCER コンファレンス事業 (旧逗子コンファレンス) 報告・ご案内

本プロジェクトでは、旧逗子コンファレンスの伝統を引き継いで2年計画で学術書を出版すべく、2年度目の活動を進めた。全体テーマは『国際経済学のフロンティア』とし、主として国際貿易論の過去10年の進化・変貌を中心に、詳細なサーベイを行っている。2014年8月19日～20日に慶應義塾大学三田キャンパスにおいて第2回ワークショップを開催し、各章の一次稿をもとに詳細な検討を行った。執筆者以外の研究者にも多数参加をお願いした。その後、ワークショップにおけるコメントを受けて原稿を修正し、現在、出版社からの提案に沿って各章のスタイルの統一等の微調整を行っている。当初予定よりも少々遅れてしまったが、2015年度中頃には出版に至る予定である。

第2回ワークショップ プログラム

8月19日 (火)

9:30~9:50 プロジェクトの概要説明

午前の部 座長： 学習院大学 椋 寛

10:00~11:00 「企業の異質性と国際貿易」(第1章)

報告者： 鎌田 伊佐生 ウィスコンシン大学

討論者： 神事 直人 京都大学

11:10~12:10 「比較優位と国際貿易」(第2章)

報告者： 西岡 修一郎 ウェストバージニア大学

討論者： 伊藤 恵子 専修大学

午後の部1 座長： 一橋大学 北野 泰樹

13:10~14:10 「海外直接投資の動向と理論・実証研究」(第3章)

報告者： 松浦 寿幸 慶應義塾大学

討論者： 田中 鮎夢 摂南大学

14:20~15:20 「企業の異質性と多国籍企業の進出決定要因」(第7章)

報告者： 伊藤 由希子 東京学芸大学

討論者： 加藤 篤行 早稲田大学

討論者： 清田 耕造 慶應義塾大学

17:40~18:00 総括

公2 学術研究交流促進事業

(1) ミクロ経済分析事業 (2014年度 TCER ミクロコンファレンス・DC コンファレンスとの共同開催) 報告

2014年度 TCER ミクロコンファレンスは、10月13日(月)に第20回ディセントラライゼーションコンファレンス(DC)と共催の形で福岡大学にて行われた。今年度は日本経済学会秋季大会(於西南学院大学, 10月11, 12日)の後日の開催となった。13日朝に台風19号が鹿児島県に上陸し、14日にかけて日本列島を縦断したものの、コンファレンスはスケジュール通りに無事開催された。

コンファレンスは例年同様、招待講演と投稿論文の報告によって構成された。招待講演者は宇井貴志氏(一橋大学)であり、「ベイジアンゲームにおける内生的情報構造と情報の社会的価値」と題する研究報告が17時から18時に行われた。投稿論文は非協力・協力ゲーム理論, 社会的選択理論, 数理経済学等を中心に18件集まった。それらは9時から10時20分, 10時30分から11時50分, 13時20分から15時20分, 15時30分から16時50分にそれぞれ2つの並行するセッションに分けられ報告された。台風の直撃による交通機関の乱れ等の影響で, 残念ながら参加を直前で取りやめる方々も多くいらしたにもかかわらず, 全国21の大学および出版社1社から総勢32名の研究者, 大学院生, 編集者が集まり, 活発な議論が行われた。

なお, プログラム委員は, 岩崎敦(電気通信大学), 梶井厚志(京都大学), 近郷匠(福岡大学), 佐藤伸(福岡大学), 関口格(京都大学), 武岡則男(横浜国立大学)の6名であった(敬称略, 50音順)。コンファレンスのプログラムとスケジュールは以下の通りである。

2014年度 TCER ミクロコンファレンス(第20回 DC コンファレンス)プログラム

セッションA 午前の部1 (文系センター棟 15階第5会議室)

社会的選択理論1 座長: 佐藤伸(福岡大学経済学部)

9:00-9:40 中村祐太(慶應義塾大学経済学研究科修士課程) Maximum likelihood social choice rule

9:40-10:20 佐藤伸(福岡大学経済学部) A decomposition of strategy-proofness

セッションB 午前の部1 (文系センター棟 15階第7会議室) 数理経済学 座長: 増澤拓也(福山大学経済学部)

9:00-9:40 八尾政行 (慶應義塾大学経済学部) Fixed point theorems, Recursive Utility and the Solution to the Bellman Equation

9:40-10:20 増澤拓也 (福山大学経済学部) A Unified Approach to Optimization Problems via Metzler Functions

セッションA 午前の部2 (文系センター棟 15階第5会議室)

社会的選択理論2 座長: 山邑紘史 (東京工業大学社会理工学研究科)

10:30-11:10 河田陽向 (慶應義塾大学経済学研究科修士課程) Deliberation Monotonic Social Choice

11:10-11:50 山邑紘史 (東京工業大学社会理工学研究科) Interpersonal Comparison Necessary for Arrovian Aggregation

セッションB 午前の部2 (文系センター棟 15階第7会議室) 情報伝達と契約
座長: 三浦慎太郎 (神奈川大学経済学部)

10:30-11:10 大角道子 (筑波大学大学院システム情報工学研究科社会システム・マネジメント専攻) Optimal contracts and career concerns:

Comparing information structures

11:10-11:50 三浦慎太郎 (神奈川大学経済学部) On the Possibility of Information Transmission

セッションA 午後の部1 (文系センター棟 15階第5会議室)

マーケットデザイン 座長: 無藤望 (横浜国立大学)

13:20-14:00 大谷秀平 (慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程) Strategy-proof reassignment of arrival slots

14:00-14:40 藤田悦誌 (九州大学大学院システム情報科学府修士課程) A Complexity Approach for Core-Selecting Exchange with Multiple Indivisible Goods

14:40-15:20 無藤望 (横浜国立大学大学院国際社会科学研究院) Revenue-capped efficient auctions

セッションB 午後の部1 (文系センター棟 15階第7会議室)

情報と組織、繰り返しゲーム 座長: 小林創 (関西大学経済学部)

13:20-14:00 森谷文利 (神戸市外国語大学外国語学部) Asymmetric information allocation to avoid disastrous outcomes

14:00-14:40 宮原泰之 (神戸大学大学院経営学研究科) Finitely Repeated Games with Automatic and Optional Monitoring

14:40-15:20 小林創 (関西大学経済学部) Information Accumulation in Repeated

Games with Imperfect Public Monitoring: Theory and Experiment

セッションA 午後の部2 (文系センター棟 15階第5会議室)

安定集合、コア、協力ゲームの解 座長：平井俊行 (富山大学経済学部)

15:30-16:10 横手康二 (早稲田大学大学院経済学研究科博士課程) Weighted values and the Core in NTU games

16:10-16:50 平井俊行 (富山大学経済学部) Stable sets of a strategic public good provision game

セッションB 午後の部2 (文系センター棟 15階第7会議室)

ミクロ経済学 座長：下村研一 (神戸大学経済経営研究所)

15:30-16:10 白井洸志 (京都大学・シンガポール国立大学) Strategic complementarity: a revealed preference approach

16:10-16:50 下村研一 (神戸大学経済経営研究所) Market equilibrium where oligopoly and monopolistic competition coexist: analytical approach

招待講演 (文系センター棟 15階第5会議室) 司会：関口格 (京都大学)

17:00-18:00 宇井貴志 (一橋大学経済学研究科) ベイジアンゲームにおける内生的情報構造と情報の社会的価値

(2) ミクロ経済分析事業 (14th SAET Conference on Current Trends in Economics)

報告

SAET conference (2014)の目的は、経済理論の様々な対象・側面・方法に関する最新の研究に関する情報交換をおこなうことである。これは研究の発表だけでなく、学会や懇親会での会話の中でも有益な情報交換が行われる。本会議においても、そのための環境作りに苦心した。また、学会での発表のレベルを上げるためのオーガニゼーションの工夫も行った。結果として非常に盛んな議論が行われ、多くの参加者に非常に有益なコンファレンスだったと評された。

期間：2014年8月19日(火)～8月21日(木)

会場：早稲田大学 早稲田キャンパス 10号館1階～3階、8号館B101
(新宿区西早稲田1-6-1)

主催：Society for the Advancement of Economic Theory

共催：早稲田大学経済学研究科、Springer、公益財団法人 東京経済研究センター

大会セッション数および報告数

セッション数：63 セッション

19 日午前 7 セッション、19 日午後 8 セッション

20 日午前 8 セッション、20 日午後 16 セッション

21 日午前 8 セッション、21 日午後 16 セッション

一般報告数：246

基調講演：3

Nobuhiro Kiyotaki (Princeton University),

”Financial Crisis and Public Policy”

Polemarchakis, Herakles (University of Warwick),

“Intervention in Market Economies”

Liu, Fenrong (Tsinghua University),

“Title: Emergence of Preferences from the Logical Perspective”

チュートリアル：1

Tai-Wei Hu (Northwestern University),

“Prediction/Decision Making in Epistemic Logic”

会場

一般報告は中規模教室（収容人数 50 名）で行い、基調講演とチュートリアルは大規模教室（収容人数 304 名）で行った。各教室での PC の立ち上げや使用にばらつきが無い様に設定し、開催期間前日に各会場のテストを行った。セッションの進行については、オーガナイザーに一任した。

一般報告は、8 つの会場に分かれて、パラレルセッションが行われた。1 件の発表時間は 30 分であり、言語は英語で行われた。どのセッションも、活発な討論、質問、コメントがあった。

参加者数

3 日間延べ人数、954 人。

本大会には、アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、フランス、オランダ、中国、台湾、日本等の様々な国の大学や研究機関に所属する研究者や学生が参加した。

運営委員

金子守、秋山英三、荒木一法、船木由喜彦、清水和巳、須賀晃一、田中久稔、石川竜一郎の 8 名の委員で大会運営委員会を組織した。運営は、金子守（大会運営委員長）を中心に各運営委員が、学会前、当日、後においてそれぞれの分担で協力して業務にあたった。当日は大きな混乱もなく、無事大会を終えることができた。

(3) ミクロ経済分析事業 (第3回教育経済・教育政策研究コンフェレンス) 報告

2014年12月20日(土)、慶應義塾大学三田キャンパスで標記のコンフェレンスを実施した。コンフェレンスでは、全国各地から、教育政策・教育経済の実証研究を行っている経済学と教育学の研究者と大学院生に加え、文部科学省関係者の出席も含め、計40名の参加者を得た。

コンフェレンスでは、日本の教育政策・教育経済学に関する最新の論文に関する報告について議論を行った。特に、第一部から第五部まで、以下のテーマを設定し、終日発表と討論を行った。

- 第一部 大学進学と収益率
- 第二部 非認知能力の役割
- 第三部 基調講演
- 第四部 学力の変動
- 第五部 教育の非金銭的効果

計7件の論文が発表され、それぞれの分析対象・データ・手法・解釈などについて参加者より多くの質問が出され、活発な討議が行われた。今回は、日本の研究のみならず、発展途上国を対象とした研究も報告され、分析手法や日本での適用可能性について質疑が行われた。

教育学・経済学といった普段所属する分野を超えて、ほぼ共通のテーマで集中的に議論し、この分野における課題と問題意識を共有できたことは大変有意義であった。参加者からは、今後もこのようなコンフェレンスの開催を希望する声が多く聞かれた。

プログラム

10:10~10:15 開会の辞：濱中淳子(大学入試センター)

第一部 大学進学と収益率 座長：濱中淳子(大学入試センター)

10:15~11:10 大井方子(高知短期大学)

「1990年以降の男女計大学進学率の推移とその背景：少子化、雇用環境と高学歴指向」

11:10~12:00 菊地信義(東京大学)

“Marginal Returns to Schooling and Education Policy Change in Japan”

第二部 非認知能力の役割 座長：小塩隆士(一橋大学)

13:00~13:50 松岡亮二(早稲田大学)

“A longitudinal study of elementary school children's extracurricular activity participation and their non-cognitive development”(共著 慶應義塾大学・中室牧子、学習院大学・乾友彦)

13 : 50~14 : 40 萱場豊 (東京大学)

“Procrastination problem in meeting homework deadlines-Evidence from quasi-experiment-“
(共著世界銀行・田中知美)

第三部 基調講演 座長：赤林英夫 (慶應義塾大学)

15 : 10~16 : 00 小林雅之 (東京大学) 「日本における教育経済学の受容と変容」

第四部 学力の変動 座長：小林雅之 (東京大学)

16 : 20~17 : 10 赤林英夫 (慶應義塾大学)

“Dynamics of Educational Inequality among Children in Japan: Findings from the First Four Years of the Japan Child Panel Survey”

(共著 一橋大学・中村亮介、慶應義塾大学・直井道生、一橋大学・野崎華世、千葉大学・佐野晋平、国立教育政策研究所・妹尾渉、帝京大学・敷島千鶴、日本女子大学・山下絢)

第五部 教育の非金銭的効果 座長：妹尾渉 (国立教育政策研究所)

17 : 10~18 : 00 増田一八 (政策研究大学院大学)

“The Effect of Girls' Education on Adolescent Pregnancy: Evidence from the Introduction of Universal Primary and Secondary Education in Uganda”

(共著 政策研究大学院大学・山内慎子)

18 : 00~18 : 05 閉会の辞：赤林英夫 (慶應義塾大学)

(4) マクロ経済分析事業 (2014年度 TCER マクロコンファレンス) 報告

第16回 TCER マクロコンファレンスは2014年11月29日・30日に、慶應義塾大学において開催され、内外の多くの研究者、実務家が参加した。例年通り、多くの投稿論文があり、プログラム委員会により選ばれた9本の論文が報告された。本コンファレンスでは例年、一つの論文につき20分の報告、20分の指定討論者による討論、20分のフロアを含む議論の時間が設定されている。通常の学会と比べて多くの討論時間を確保しており、今回も、各セッションで非常に活発で質の高い議論が繰り広げられた。報告内容も、為替レートの急変動を引き起こす要因、財政政策の効果、流動性の罫の下での金融政策、厚生経済学の再構築、決済システム等、非常に多様な研究テーマがカバーされたものとなった。プログラムは以下の通りである。

2014年11月29日(土)、30日(日)

慶應義塾大学三田キャンパス

東館6階 GSEC ラボ

オーガナイザー (代表)

阿部修人 (一橋大学)、祝迫得夫 (一橋大学)、小野善康 (大阪大学)、
櫻川昌哉 (慶應義塾大学)、渡辺努 (東京大学)

プログラム委員

青木浩介 (東京大学)、小川一夫 (大阪大学)、塩路悦朗 (一橋大学)、
廣瀬康生 (慶應義塾大学)

主催

慶應義塾大学経済学部

TCER (東京経済研究センター)、東京大学「長期デフレ」プロジェクト、
一橋大学経済研究所経済社会リスク研究機構及び科研費「人口減少・高齢化の下で
の日本の経常収支のダイナミクス」、大阪大学社会経済研究所

プログラム

11月29日(土)

セッション1 : Great Recession and Slow Recovery

座長 : 廣瀬康生 (慶應義塾大学)

13:00-14:00 池田大輔 (日本銀行) "Post-Crisis Slow Recovery and Monetary Policy" (黒
住卓司との共著)

コメント : 寺西勇生 (慶應義塾大学)

14:00-15:00 千賀達朗 (Ohio State University) "A New Look at Uncertainty Shocks:
Imperfect Information and Misallocation"

コメント : 片桐満 (日本銀行)

セッション2 : マクロ経済の実証分析

座長 : 小川一夫 (大阪大学)

15:30-16:30 中谷亮太（日本銀行）"The Effects of Financial and Real Shocks, Structural Vulnerability and Monetary Policy on Exchange Rates from the Perspective of Currency Crises Models"

コメント：加納隆（一橋大学）

16:30-17:30 森田裕史（一橋大学）"State-Dependent Effects of Fiscal Policy in Japan: Do Rule-of-thumb Households Increase the Effects of Fiscal Policy?"

コメント：新谷元嗣（東京大学）

11月30日（日）

セッション3：金融政策における期待の制御

座長：青木浩介（東京大学）

10:00-11:00 仲田泰祐（Federal Reserve Board）"Reputation and Liquidity Traps"（英語による報告）

コメント：黒住卓司（日本銀行）（英語によるコメント）

11:00-12:00 脇雄一郎（University of Queensland）"The Optimal Degree of Discretion in Monetary Policy in a New Keynesian Model with Private Information"（Richard Dennis、藤原一平との共著）

コメント：砂川武貴（東京大学）

セッション4：マクロ経済理論の新しいフロンティア

座長：塩路悦朗（一橋大学）

13:30-14:30 大垣昌夫（慶應義塾大学）"A Reformulation of Normative Economics for Models with Endogenous Preferences"（Vipul Bhatt、矢口裕一との共著）

コメント：池田新介（大阪大学）

15:00-16:00 尾崎裕之（慶應義塾大学）"Multi-Belief Rational-Expectations Equilibria: Indeterminacy, Complexity and Sustained Deflation"（西村清彦との共著）

コメント：祝迫達郎（大阪大学）

16:00-17:00 戸村肇（東京大学）"Private and Public Interbank Payment System"

コメント：荒戸寛樹（首都大学東京）

17:00 閉会

（５）若手研究者育成支援事業（2014年度ジュニアワークショップ）報告

3月7日（土）、早稲田大学においてTCERジュニアワークショップを開催した。1月中旬より開始した報告者の募集では8名が応募してきたが、そのうち1名が病気のために辞退することになり、結局7名が報告した。また完成論文を用意できる報告者には希望すれば討論者を用意することとした。その結果、報告者のうち5名が討論者を希望したため、執行部で適切な報告者を探して依頼した。なお今回のジュニアワークショップは同日に開催された政治経済学会と同じ会場で行われたため、ワークショップには政治経済学会に所属する研究者や山東大学（中国）から招聘された研究者も参加し、活発な議論が行われた。終了後は政治経済学会と合同で懇親会が開かれた。プログラムは以下の通り。

2015年3月7日（土）

早稲田大学3号館3階305教室（早稲田キャンパス）

11:10～12:10

座長：小倉 義明（早稲田大学）

報告者：

久田 貴紀（大阪大学）, Differences in Risk Tolerance and Asset Allocation by race/ethnic in the United States

宮本 拓郎（財務総合政策研究所）, A New Perspective on the Porter Hypothesis: Impact through Green Supply Chain Management

13:00～14:30

Chair: KAWAGUCHI, Daiji (Hitotsubashi University)

Presenters:

FU, Rong (Waseda University), “Does Marriage Make Us Healthier?: Evidence from Japanese Elderly”

IBRAHIM-SHWILIMA, Amos-James (Waseda University), “Economic growth and nonrenewable resources: An empirical investigation”

Discussants: KAWAGUCHI, Daiji (Hitotsubashi University)

TAKAHASHI, Ryo (GRIPS)

14:45～16:15

座長：田中 隆一（政策研究大学院大学）

報告者：

庫川 幸秀（早稲田大学），再生可能エネルギー普及促進策の経済分析：固定価格買取（FIT）制度と再生可能エネルギー利用割合基準（RPS）制度のどちらが望ましいか？

深井 太洋（一橋大学），The Effect of Childcare Policy on Fertility in Japan: Evidence from Regional Variation in Childcare Availability

阿部 貴晃（早稲田大学），提携形成に関する予想の公理的特徴付け

討論者：清水 大昌（学習院大学）

田中 隆一（政策研究大学院大学）

和光 純（学習院大学）

（6）TCER 定例研究会（2014 年度 TCER 研究会）報告

2014 年度の TCER 研究会は早稲田大学にて行われた。TCER 定例研究会は、フェローの方はいつでも参加できます。今年度後半の開催は以下の通りである。

2014 年 10 月 9 日 18:00-19:30 早稲田キャンパス 1 号館 2 階現政研会議室

松川 勇（武蔵大学経済学部教授）

家計におけるピーク時料金と省エネルギー・アドバイスの節電効果

2014 年 10 月 14 日 10:40-12:10 早稲田キャンパス 1 号館 401 教室

平野 智裕（東京大学大学院経済学研究科講師）

Lean versus Clean in a Rational-Bubble Model

2014 年 11 月 4 日 10:40-12:10 早稲田キャンパス 1 号館 401 教室

田中 誠（政策研究大学院大学教授）

Testing for Intrinsic and Extrinsic Motivation: Field Experimental Evidence from Energy Demand（仮題）

2014 年 11 月 6 日 16:30-18:00 早稲田キャンパス 1 号館 2 階現政研会議室

栗野 盛光（筑波大学システム情報系工学域助教）

College Admissions with Entrance Exams: Centralized versus Decentralized

2014 年 12 月 4 日 16:30-18:00 早稲田キャンパス 3 号館 304 教室

Jacob Goeree（University of Zurich 教授）

Noisy introspection in the“11-20”game”

2014年12月18日 16:30-18:00 早稲田キャンパス1号館2階現政研会議室

Kohei Kawamura (University of Edinburgh 准教授)

Understanding (Non)equilibrium Choices in Simple Games (with Santiago Sanchez-Pages)

2015年1月20日 10:40-12:10 早稲田キャンパス3号館第3会議室

黒田 祥子 (早稲田大学教育・総合科学学術院)

メンタルヘルスと働き方・企業業績にはどのような関係があるのか～従業員および企業のパネルデータを用いた検証

2015年3月23日 17:00-18:30 早稲田キャンパス3号館12階ディスカッションルーム

岩田 和之 (高崎経済大学 准教授)

An Experimental Study of Money Illusion in Intertemporal Decision Making

(7) 特別プロジェクト「アベノミクス」報告

TCERでは、昨年度から特別プロジェクトとして「アベノミクス」を立ち上げ、今年度はその2年目となる。周知のように、アベノミクスは、2012年12月26日に始まった第2次安倍内閣による「3本の矢」を柱とする経済政策のことである。その政策目標をデフレ脱却と経済回復と位置づけ、世界的にデフレが顕在化するなかで、海外でも高い注目を集めている。ただ、その開始から2年余りが経つなか、その効果には依然として賛否両論があるだけでなく、足元ではさまざまな問題点も明らかになりつつある。

そこで、TCERでは学術的観点からこの問題を取り上げ、TCERフェローを中心に研究を進め、その成果を社会に還元すると同時に、コンファレンスを開催して国際的な学術雑誌に公表することとした。昨年度は、その成果の社会還元として、2013年7月22日(月)日本工業倶楽部3階大ホールにおいて一般向けセミナーを開催すると同時に、一般向け解説記事を日本経済新聞・ゼミナール欄に2013年10月7日より「検証・アベノミクス」として連載した。また、国内の研究者から学術研究を公募し、その成果を2014年3月7日(金)に東京大学・小島コンファレンスホールで開催されたコンファレンスで報告してもらった。なお、このコンファレンスでの報告論文は、レフェリー・プロセスを経て著者に改訂要求を行っており、*Journal of the Japanese and International Economies*の特集号として来年度公刊予定である。

また、今年度は、アベノミクスに対する海外での関心が高いことを鑑み、海外の研究者も参加する国際コンファレンス“Unconventional Policy and Emerging Economies”を、2015年3月5日(木)に東京大学・小島コンファレンスホールで開催した。本コンファレンスには、「非伝統的政策が新興国に与える影響」を理論的・実証的に考察した5

本の論文が内外からの参加者によって報告された（下記のプログラムを参照）。先進各国で非伝統的政策が相次いで採用されるなかで、その世界経済、とりわけ新興国へ与える影響は大きな問題となっている。コンファレンスでは、この問題を金融と実物の両面から取り扱った論文が報告され、活発な討論が展開された。なお、報告論文は、アジア経済研究所(IDE-JETOR)の協力を得て、WILEY-BLACKWELL が出版しているレフェリー・ジャーナル the Developing Economies (DE)の特集号として公刊される予定である。

プログラム

セッション I. The Effects of Unconventional Monetary Policy around the World

座長: Seung-Gyu (Andrew) Sim (東京大学)

10:00-11:10 小川英治 (一橋大学) and Zhiqian Wang (一橋大学), "Effects of Exit Strategy of the Quantitative Easy Monetary Policy on East Asian Currencies"

討論者: 加納隆 (一橋大学)

11:15-12:25 Taeyoon Sung (Yonsei University) and Jong-Hee Kim (Chonbuk National University), "Unconventional Monetary Policy, Global Liquidity Circulation, and Inflation Divergence around the World"

討論者: 藤原一平 (慶応義塾大学)

セッション II. The Effects of Unconventional Policy: Experience from Asian countries

座長: 作道真理 (日本政策投資銀行)

13:30-14:40 Ki Young Park (Yonsei University) and Ji Yong Um (Financial Markets Group, Citibank), "Spillover Effects of U.S. Unconventional Monetary Policy on Korean Bond Markets: Evidence from High-Frequency Data"

討論者: 戸村肇 (東京大学)

座長: 中村純一 (日本政策投資銀行)

14:50-16:00 福田慎一 (東京大学) and 土井田勉 (東京大学), "Unconventional Monetary Policy and its External Effects: Evidence from Japan's Exports"

討論者: 塩路悦郎 (一橋大学)

16:05-17:15 Bhanupong Nidhiprabha (Thammasat University), "Impacts of Quantitative Monetary Easing Policy in the US and Japan on the Thai Economy"

討論者: 田中茉莉子 (武蔵野大学)

編集後記

寒さも少し和らいでまいりましたが皆様いかがお過ごしでしょうか。2014 年度 2 号目のニュースレターをお送りいたします。お忙しい中、執筆下さった理事やコンファレンス主催者の方々に感謝申し上げます。来年度も TCER をどうぞよろしく願いいたします。

Newsletter に関するご意見やご感想は代表理事小西秀樹 h.konishi@waseda.jp
または総務理事近藤絢子 akondo@ynu.ac.jp までご連絡下さい。

=====
公益財団法人 東京経済研究センター
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-7-10 山京ビル本館 703 号室
Tel & Fax 03-3239-2524 Email: tcer@mbs.sphere.ne.jp